

## 2 分析結果の要約

### 分析 1

#### 「基礎・基本」定着状況調査（教科における学習内容の定着状況）

〈タイプⅠ〉

- 小学校全教科及び中学校は理科を除く3教科でおおむね定着している。

〈タイプⅡ〉

- 中学校数学、理科、英語において、知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに課題がある。

#### 全国学力・学習状況調査（教科に関する調査の結果）

〈主として「知識」に関する問題（A問題）〉

- 小学校、中学校ともすべての教科において、平均正答率が全国平均を上回っている。

〈主として「活用」に関する問題（B問題）〉

- 小学校のすべての教科、中学校数学において、平均正答率が全国平均を上回っている。

- 中学校国語において、平均正答率が全国平均を下回っている。

### 分析 2

#### ①「基礎・基本」定着状況調査タイプⅠとタイプⅡの結果の関連状況と児童生徒質問紙の調査結果との関係

- 小学校 国語 C群：国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。
- 小学校 算数 C群：算数の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。
- 中学校 国語 C群：国語の授業はよく分かります。
- 中学校 数学 C群：数学の授業では、自分の解き方や考え方の説明をノートに書いています。
- 中学校 英語 C群：英語の授業はよく分かります。

#### ②全国学力・学習状況調査 A問題と B問題の結果の関連状況と児童生徒質問紙の調査結果との関係

- 小学校 国語 C群：国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりに内容を理解しながら読んでいますか。
- 小学校 算数 D群：算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。
- 中学校 国語 B群：国語の勉強は大切だと思いますか。
- 中学校 数学 B群：数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

※A群との回答の割合の差が5ポイント以上であり、かつA群との差が最も大きい設問

### 分析 3

#### 学習内容の定着につながる「教科学習への意識」（「基礎・基本」定着状況調査）

「よくあてはまる」と回答した児童生徒の平均通過率が最も高かった児童生徒質問紙の設問

国語 国語の授業では、伝えたいことを中心にをはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いています。

算数・数学 算数・数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由を挙げて説明しています。

理科 理科の授業では、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えています。

英語 英語の授業では、相手からの質問や依頼を聞くとき、相手が何を求めているのかを注意して聞き、それに答えるようにしています。

### 分析 4

#### 通過率 30%未満の児童生徒の状況

- 県の平均通過率の傾向と比べて、通過率 30%未満の児童生徒の平均通過率の傾向が異なっている。
- 通過率（正答率）30%未満の児童生徒と通過率（正答率）60%以上の児童生徒の肯定的な回答の割合の差が大きい上位5問のうち、小学校と中学校に共通している児童生徒質問紙の設問  
「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力しています。」  
「相手や目的に応じた話し方をしています。」  
「ものごとを解決したり決めたりするとき、なぜそうなるのか理由を考えています。」  
「前学年までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」  
「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」  
「前学年までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」

### 分析 5

#### 平成 25 年度「基礎・基本」定着状況調査結果と平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果との関係～学習内容の定着状況に改善が見られる学校の取組～

- 各教科等のねらいを達成するために、授業において、言語活動の充実を図った。
- 家庭学習を計画的に行わせるような指導をした。
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行った。
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした。

### 分析 6

#### 学力向上総合対策事業研究指定校の状況

- 指定校の平均通過率は、平成 23 年度の小中連携地域（小学校）の国語が県平均を上回っていたが、平成 26 年度はすべての教科で県平均を上回っている。
- 通過率 30%未満の児童生徒の割合は、小中連携地域（小・中学校）のすべての教科と中中連携地域の数学・英語で減少している。

### 分析 7

#### 質問紙調査の結果と教科調査の結果との関連

- 読書、生活習慣・学習習慣、総合的な学習の時間、問題解決的な学習、話し合う活動、書く活動などに関連する児童生徒質問紙、学校質問紙の設問において、肯定的な回答をした方が教科調査の結果が高くなる傾向がある。